

平成30年度 第2期所蔵作品展 重なるものたち—子供たちの視点から

1 目的

常設展示室のない現東広島市立美術館において、館のコレクションを周知し、市民に対して優れた作品を鑑賞できる機会を提供するために開催する。

2 平成30年度 第2期所蔵作品展の企画の視点

東広島市立美術館では平成15年度より市内の小中学校を対象に「出前美術館」を実施している。平成30年度は、子どもたちと“お気に入り”作品の出会いの場として、当館コレクションの大半を占める版画作品のアートカードを用いた鑑賞授業を行った。



【アートカードとは】
所蔵作品を印刷したもの。カードゲームを通じて鑑賞プログラムを行うことで、美術への興味関心を持ってもらうための鑑賞ツール。図画工作、美術鑑賞教育等で活用することを目的としている。

【出前講座実施学校】
下黒瀬小学校【第5学年】65名／平岩小学校【第3学年】63名／川上小学校【第6学年】98名／西条小学校【第5学年】175名

本展では、鑑賞授業で行った「版画カルタ」プログラムで子どもたちがアートカードの中から“お気に入り”に選出した版画作品を中心に展示し、アートカードで「見て」「触れて」「学んだ」作品の現物を鑑賞する。

展示に際しては、これらの作品を2つのテーマを対比させ「比べて見る」ことで素材や技法、作品の見どころや視方について鑑賞体験する。また、それぞれの作品で共通する（＝重なる）ものや特徴を探ることで、作品の魅力や美術鑑賞の理解を深める。

3 会期

平成31年1月26日（土）～3月24日（日）

前期：1月26日（土）～2月24日（日）／後期：2月26日（月）～3月24日（日）

4 展示内容

(1) 第1章「ひとつといくつか」

「ひとつ」と「いくつか」の材質や技法に焦点をあて鑑賞する。

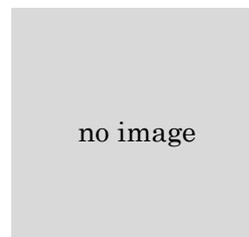
①「ひとつ」の要素によってつくられた作品

- 釉薬を使用しない焼締技法で「土」という一つの素材から作られる備前焼
- モノクロ単色刷りの版画

②「いくつか」の要素を持つ作品

- 多色刷りの版画
- 数種類の釉薬等を用いた陶芸作品等

出品作家：長谷川潔、浜田知明、伊勢崎満、草間彌生、



伊勢崎満《備前矢筈口耳付水指》

【通期展示】



川西英《古道具屋》【前期展示】

浜口陽三、西本直文など

(2) 第2章「集まる視線 と 見つめる視線」

「集まる視線」と「見つめる視線」の先にあるものを鑑賞する。

①「集まる視線」

繊細な表現に目を留め凝視してしまう作品

- シンプルな色面を覆い尽くす煌めく虚構の世界
- 多様な生き物



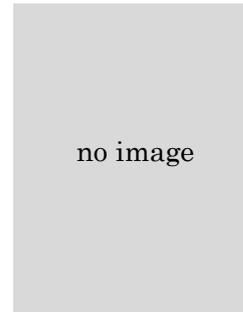
小林敬生
《遺された
部屋 No. 4》
【前期展示】

②「見つめる視線」

眼差しの先を考える作品

- 作家自身が捉えた題材や見つめたもの
- 描かれた人物たちの眼差しの先

出品作家：小林敬生、久保田厚子、斎藤清、棟方志功、池田満寿夫、十二代三輪休雪など



池田満寿夫
《陽光のように》
【後期展示】

(3) 第2章「光 と 幻想」

目の前に広がる景色や様々な事物を目で認識するための「光」と、この光で照らされた実際の光景だけでなく、美術家たちが描いてきた目には映らない非現実的な世界である「幻想」の対比を鑑賞する。

①「光」

光や、太陽の運行による変化をとらえた作品



加納光於
《暁によばれて I》
【前期展示】

②「幻想」

暗闇に浮かび上がる幻想的な世界や、心象風景を描いた作品



瑛九《旅人》【後期展示】

出品作家：加納光於、徳力富吉郎、山中現、吉田博、十四代 今泉今右衛門、吹田文明、瑛九など

5 関連企画（ワークショップ）

(1) ワークショップ「版画カルタで遊ぼう」

当館所蔵品がプリントされたアートカードを利用し、カルタ遊びによる鑑賞プログラムを行う。

日時：平成31年2月9日（土）14:00-15:30

講師：担当学芸員

会場：八本松地域センター、2階展示室

参加費：入館料が必要

定員：20名（小学生以下は保護者同伴）

対象：小学校中学年以上（一般参加可）

(2) ワークショップ「物語をつくろう」

展示作品を鑑賞しながら短い物語をつくるワークショップ。

日時：平成31年3月2日（土）14:00-15:30

講師：担当学芸員

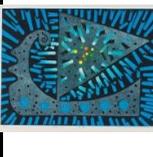
会場：2階展示室 ※要入館券

参加費：入館料が必要

定員：15名（小学生以下は保護者同伴）

対象：小学校高学年～高校生

出前美術館「版画カルタ」プログラム参加者が選んだ“お気に入り作品”

作品画像	作家名	作品名	「版画カルタ」プログラム読み札	お気に入り票数	お気に入りの理由(抜粋)
	戸張 孤雁	玉乗り	四人で玉乗り 楽しそう	2	・昭和感が溢れているから。四等身の人が出ておもしろいから。 ・この作品を作った人はすごいなと思いました。玉に人が乗っているのは、とても難しいと思ったからです。
	山本 鼎	ブルターニュの 入江	湖と遠くに 見える 白い雲	5	・どこか親しみやすい、懐かしい雰囲気がする。 ・とてもきれいだったし、奥の方に家もあってとても落ち着いた感じだったからです。 ・色づかいがすごくきれいでした。畑のようなところを、版画でどこぼこしているように描くのはすごいなと思いました。家などの細かいところも色をはみ出させたりせずに描けていてすごいなと思いました。
no image	川瀬 巴水	「東京十二題 大根がし」	空から眺める 川と村	11	・昔の江戸時代のようなのでした。そして、他の場所より高いところから描いているので、建物が立体に見えてすごかったです。 ・大きな川のまわりで人が色々なことをしていて、とても生活感のある絵だなと思い、すごいと感じました。川の白いのが多いので、流れは速そうだなと思いました。
	恩地 孝四郎	円波	水面に 映る自分 と水	3	・静かでいいから ・この作品の女の子からいろんなことが考えられます。水の中から何かを見ているようだし、何かを洗っているみたいなのが分かります。 ・池から落ちそうになるくらい、池の中に夢中になっていて面白いなと思いました。
	川西 英	古道具屋	集められた 赤と白と黒 古い道具たち	7	・他の作品と比べて色がはっきりとしている。いろんな道具があっ ておもしろい。 ・ほかの作品と違って、あんまり色を使ってないのが、シンプルで 心に残りました。 ・赤が目立ってきれいだったからです。小さい小物も細かく表現し てあったのすごいなと思いました。
	斎藤 清	カメラ	お花と横顔 どこを みているの？	2	・女の人の髪の色が、緑青っぽいし、花のつぶつぶがきれいだから。 カメラという題名の意味が知りたいから。 ・わたしは、女の人のよこがおに赤いつばきがえがかれていて、 とてもきれいだなと思ってこれが気に入りました。
	棟方 志功	「流離抄板画巻 獅子窟の柵」	走る足 受け取る ような手 いろんな場所を 見る顔	3	・顔が3つ、手が3人分、足が1人分、へんなかっこうをしてい て、おもしろかったです。人間の周りに言葉が書かれていて、とて もびっくりしました。
	畦地 梅太郎	山のよろこび	左手に 鳥持つ 狩りを 終えた人	4	・山でかりをしたふんいきもあるし、色がすきだからえらんだ。
	清宮 質文	九月の海辺	海辺の メダカを 見る自分	7	・もう少しで日が暮れそうなときに、海辺に寝転んでコップには いっている魚を見ている人が、魚の気持ちを考えて見つめている 感じだと思って、すごいなと思いました。 ・朝の海辺に、軽く日が昇っているように見えるところが美しく、倒 れている人の目が不思議。コップの中の魚を見ているのがとても 暗い印象で、静かな美しさでした。
	吹田 文明	星座シリーズ 舟座	無数の青 幻想的な 宙(そら)の色	14	・他の作品は想像するとすぐに分かるけど、この作品はじっくり考 えてみなければ分からないところが面白いなと思った。また、色 があまりないことから星座感があり面白かったから。とても 版画とは思えなかった。 ・横にしてみると船に見えて、縦で見るとくつとカラーコーンや帽 子に見えます。そんなところがすごく面白いと思ったり、意図的 なのかなあと思ったりして、すごく考えさせられたからです。
	徳力 富吉郎	洛西滝又の滝	秋の山の がけを 流れる滝	59	・滝のまわりに紅葉があっけきれいなと思ったから。落ちてい る葉っぱなど、版画でこんなに細かくうつすことができるのはすご いなと思った。 ・左右に赤と黄のもみじみたいな葉があっ、とても広島みたい できれいだったからです。真ん中の滝も形がとても好きで、お気 入りの作品になりました。

	山中 現	星 夜 Ⅱ	星 空 の 下 一 人 ぼ っ ち さ み し い な あ	12	・星空の下にある砂漠のひっそりとした感じが良かった ・枠から見える星空がきれいだから。私は1人ぼっちのときが落ち着くから。 ・ひとりぼっちで夜を過ごすことがなんか切ない感じがして面白かったから。にぎやかな夜もあるけど、この夜は静かでしみりしているから。星空が素敵だったから。
	小林 敬生	遺 さ れ た 部 屋 N o . 4	野 原 に 黒 白 の 集 ま る い き も の た ち	13	・ぼくは「遺された部屋」の1つの絵にいろいろなものが描いてあるところが面白い作品だと思いました。ヘビやチョウなどの生きものがたくさん描いてあってすごいな～と思いました。 ・隠れている動物たちがとてもきれいに描かれていて、すごいと思いました。よくみたらレンガでつくられた柱があることなど見つけたりするの面白いと思いました。
no image	長 谷 川 潔	ア レ キ サ ン ド ル の 飛 行 機 三 世 の 橋	高 空 の 川 の 橋 高 い の 飛 行 機 タ ワ ワ	31	・白黒だけど鮮やかな風景が想像できるようなところが良いなと思いました。 ・この作品は、見た時から「外国かな」と思っていて、景色がきれいだなと思いました。そして、実際にある場所だったのですごいなあと感じたし、びっくりしました。すごくリアルなので、おもしろかったです。
no image	浜 口 陽 三	青 い ガ ラ ス	暗 闇 の 中 器 い っ ぱ い の こ ば し と り	11	・青いガラスの向こう側にあるさくらんぼが、なぜさくらんぼなのか知りたいし、一つだけ落ちているさくらんぼが魅力的でした。 ・さくらんぼではなく、あえて入れ物を題名にしたところが気に入った。器に多く入っているところを表現するために、器の外にさくらんぼを描くという点が気に入った。
	相 笠 昌 義	サ イ を み て る 人 、 動 物 園	見 な い で と 顔 を 見 せ て 後 ろ を 見 て く す	12	・サイのお尻がおもしろい ・首を一番伸ばしているおじいさんがなんだかおもしろい。この大きいサイを実際に見てみたい。 ・よく見れば、4人が見ているように見えるが、7人いる！リアル！
no image	池 田 満 寿 夫	陽 光 の よ う に	赤 い 目 で 見 つ め る 世 界 ゆ が ん で る	2	・線の描き方がほかの作品と違ったので、実物というか描いているところを見てみたいと思ったからです。 ・ピカソが描いたかおとにしているから。かおが左右ひたいしようだから。
	加 納 光 於	暁 に よ ば れ て I	ピ ン ク に 染 ま る 太 陽	36	・カラフルで神秘的だから。 ・色使いがよくて、すごくみえた。目にすぐ飛び込んだ。 ・版画なのに、光を放っていることが見ただけで分かりました。私は夕日かな？と思いました。理由は、ピンク色になって、海に太陽が沈んでいくような絵に見えたからです。紫、緑、黒、オレンジは堤防で、水色のところが海だと思ってきれいだなと思いました。
	友 安 一 成	母 子 像	綿 毛 飛 ぶ 母 の 愛 に つ つ ま れ て	4	・ぼくがこの絵・風景・様子で気に入ったことは、春がすんだ感じみたいで、そこに赤ちゃんを抱いている母子がいて、この人は、赤ちゃんを抱いて何かを感じているという感じが、何かを思うようでした。そして、風がそよいで、花に包まれていて、白黒であざやかな感じが目に見えたのですごいなと思いました。
	瑛 九	旅 人	森 に カ ラ フル な 風 船	9	・暗い色の中に明るい色があって、暖かく光っているようだったから。 ・色がとてもきれいでかわいい。ふうせんが光っているみたい。 ・色使いがとてもきれいだったから。すごく不思議な絵だったから。
	井 田 照 一	e n L a R o s e	赤 い ド ア の 先 に バ ド ラ の 人 は	4	・ばらの形がすごくきれいなのでこの作品をえらびました。 ・ドアみたいで、バラの絵がかいてあって、ほんとうに「ばらいろのじんせい」に見えたからです。
no image	草 間 彌 生	南 瓜	カ と ボ け チ だ ヤ す	9	・ほかの作品はいろいろなものをかいているのに、この作品はかぼちゃ1つしかかいていなくて、シンプルでいいなと思いました。 ・ピカピカ光って見えるのが印象的。なんかピリピリくる。 ・黄色や黒色が主に使われていて、形は南瓜が「ドロ〜ン」としていてすごい面白いなと思いました。すごい「はで」で気に入りました。

※「読み札」は八本松中学校美術部生徒が作成

※お気に入り作品の票数については、12月7日現在未実施の西条小参加児童を除く3校及び八本松中美術部分を集計



一子どもたちの視点から

2019 1.26[土]—3.24[日]

前期 1.26[土]—2.24[日] / 後期 2.26[火]—3.24[日]

会場＝東広島市立美術館 2階展示室 開館時間＝10:00-17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日(祝日の場合は翌日)

入館料＝一般100(70)円、大学生70(50)円*、高校生以下無料*

*学生証をご提示ください。/()内は20名以上の団体料金

主催＝東広島市立美術館

加納光於《暁によばれてI》1991-92【前期展示】

東広島市立美術館

HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒739-0144 東広島市八本松南2-1-3

TEL 082-428-5713 FAX 082-427-3058

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/bijutsukan/>

重なるものたち

東広島市立美術館 第2期所蔵作品展

東広島市立美術館は1979年の開館以来、日本の近現代版画をはじめ、中国地方を中心とした現代陶芸作品や郷土ゆかりの作品を収集し、2003年からは市内の小中学校を対象に鑑賞授業を行う「出前美術館」事業を継続して実施しています。

本展では、本年度の「出前美術館」参加校の子どもたちが当館コレクションより選出した「お気に入り」の版画作品を中心に、陶芸作品を交えた約50点を前後期にかけて展示します。

「ひとつといくつか」「集まる視線と見つめる視線」「光と幻想」というように、各章2つのテーマをもとに構成しそれぞれを“比べて見る”ことで、素材や技法、描かれているものやそれらが持つ視線、目に映る現実と作家によって描き出された幻想に焦点をあてながら、各作品に共通する(=重なる)ものや特徴を探ります。

描かれた表現のみならず、作家が込めた思いや制作背景などを知ることで視えてくる作品独自の世界観をご堪能ください。

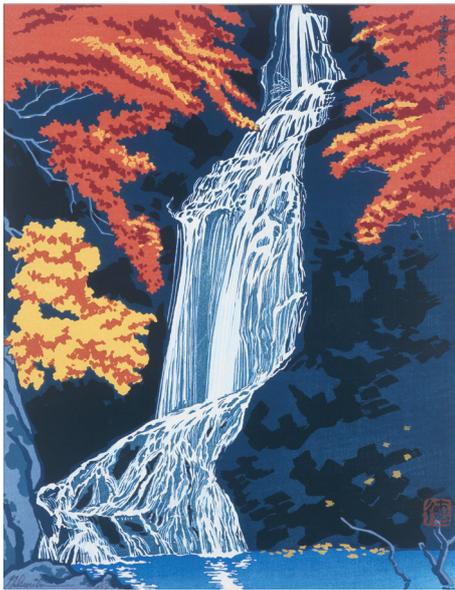
1.瑛九《旅人》1957【後期展示】/2.吹田文明《星座シリーズ 舟座》1971【後期展示】/3.徳力富吉郎《洛西滝又の滝》1976【前期展示】/4.山中現《星夜II》1987【後期展示】/5.西本直文《十二単衣袖彩陶笥》2011【通期展示】



1



2



3



4



5

関連ワークショップ

① 版画カルタで遊ぼう

当館所蔵の版画作品がプリントされたアートカードを利用し、カルタ遊びによる鑑賞プログラムを行います。

日時=2月9日(土) 14:00-15:30

講師=担当学芸員

会場=八本松地域センター、当館2階展示室

参加費=入館料が必要

定員=20名(事前申込制・小学生以下は保護者同伴)

対象=小学校中学年以上(一般参加可)

② 物語をつくろう

展示作品をじっくり鑑賞しながら短い物語をつくります。

日時=3月2日(土) 14:00-15:30

講師=担当学芸員

会場=当館2階展示室

参加費=入館料が必要

定員=15名(事前申込制・小学生以下は保護者同伴)

対象=小学校高学年~高校生

【参加申込方法】

往復ハガキに下記の内容をご記入の上お申し込みください。

※定員多数のお申し込みがあった場合は抽選となります。

往信裏面=①行事名 ②参加希望者全員の名前・ふりがな(付き添いのみの保護者は「同伴者」と明記) ③年齢 ④電話番号

返信表面=①返信先の郵便番号・住所 ②宛名

申込期限=「版画カルタで遊ぼう」1月25日(金)必着

「物語をつくろう」2月15日(金)必着

申込宛先=東広島市立美術館

〒739-0144 東広島市八本松南2-1-3

■交通アクセス

JRをご利用の場合:山陽本線「八本松」駅下車 徒歩約10分/

山陽新幹線「東広島」駅下車 タクシー約15分

お車をご利用の場合:山陽自動車道 志和ICから約10分/

国道486号 八本松駅前交差点を南へ800m



広島方面からお越しの方はご注意ください。
国道2号から県道62号線へは下りのみです。
国道486号をご利用ください。